議　　事　　録

１　日時

令和元年７月２６日（金）

午後１時３０分～午後４時３０分

２　会場

和歌山市役所　１１階　教育委員室

３　出席者

【教育長及び委員】

教育長　　原　　一起

委員　　藤本　禎男

委員　　森﨑　陽子

委員　　波床　昌則

委員　　打田　雅子

【事務局職員】

教育学習部長	坂下　雅朗	学校教育部長	中北　晴美
教育政策課長	中村　保	教育政策課副課長	上中　英人
教育施設課副課長	和中　潤一	生涯学習課長	加藤　裕晃
学校教育課長	東　　康修	教職員課長	栂野　作治
教育研究所長	岡本　友尊	保健給食管理課長	中　　住弘
青少年課副課長	高石　順弘	市民図書館副館長	井上　豊英
博物館長	近藤　壮	教育政策課総務政策班長	楠本　佳章
教育政策課事務主任	若林　拓也	生涯学習課専門教育監補	南方　孝俊

【和歌山市立小学校、中学校及び義務教育学校教科用図書選定委員会】

選定委員	吉原　良治	選定委員	南方　良文
選定委員	川端　良幸		

４　開会宣示

原教育長が、開会を宣示。

５　議事録

６月教育委員会定例会の議事録を承認。

６　署名委員指名

署名委員に打田委員を指名。

７　議案

原教育長

本日は、議案が５議案となっています。議案第２１号については、会議規則第５条第６号に当たるもので秘密会が適当だと思いますがいかがでしょうか。

委員一同

異議なし。

原教育長

異議なしと認め、議案第２１号については秘密会とします。

議案第１７号　　和歌山市立博物館協議会委員の任命について

原教育長

それでは、まず初めに、議案第１７号「和歌山市立博物館協議会委員の任命について」説明をお願いします。

近藤博物館長

議案第１７号「和歌山市立博物館協議会委員の任命について」ご説明いたします。

博物館法及び和歌山市立博物館条例により設置しております「和歌山市立博物館協議会」の委員１２名のうち、学校教育の関係者２名及び学識経験のある者１名に、変更があったため、後任の委員の任命についてのものです。

それに伴い、別紙名簿１の３名の委員に委員委嘱をいたしたいと考えておりますのでご審議よろしくお願いします。

原教育長

ただいまの議案第１７号について、何か質問はございませんか。よろしいですか。

委員一同

はい。

原教育長

それでは、ただいまの議案第１７号について採決を行います。

原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

原教育長

それでは、原案どおり承認します。

それでは、博物館長は退席願います。

議案第１８号　　和歌山市社会教育委員の委嘱について

原教育長

続いて、議案第１８号「和歌山市社会教育委員の委嘱について」説明をお願いします。

加藤生涯学習課長

議案第１８号「和歌山市社会教育委員の委嘱について」ご説明いたします。

資料の１ページをご覧ください。和歌山青年会議所並びに和歌山市中学校ＰＴＡ連合会において、役員の変更がございました。それに伴い、２名の推薦状が出ております。

和歌山青年会議所は成瀬允陽様で、前任者が松下正典様から変更となっております。

和歌山市中学校ＰＴＡ連合会は新名奈美子様で、前任者は岡京子様から変更となっております。

後ろの２ページと３ページにそれぞれの推薦状、４ページと５ページに社会教育法と和歌山市社会教育委員条例を載せております。社会教育法第１５条並びに和歌山市社会教育委員条例２条及び第３条により、委員の委嘱をいたしたく存じますので、ご審議の程よろしくお願いいたします。

原教育長

ただいまの議案第１８号について、何かご質問等ございませんか。よろしいですか。

委員一同

はい。

原教育長

それでは、ただいまの議案第１８号について採決を行います。

原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

原教育長

それでは、原案どおり承認します。

議案第１９号　　和歌山市民図書館協議会委員の任命について

原教育長

続いて、議案第１９号「和歌山市民図書館協議会委員の任命について」説明をお願いします。

井上市民図書館副館長

議案第１９号「和歌山市民図書館協議会委員の任命について」ご説明申し上げます。

平成３０年７月の定例教育委員会でご承認いただき任命しました、和歌山市図書館条例に基づく図書館協議会委員のうち、家庭教育の向上に資する活動を行う者として、和歌山市小学校ＰＴＡ連合会から推薦されていた、堀多佳子委員から退任の申し出がありました。理由は役員の改選によるものです。つきましては、和歌山市小学校ＰＴＡ連合会から副会長兼女性部長の水越円香氏の推薦がありましたので、堀委員の後任として任命したいと考えています。

また、市議会５月臨時会で議長の改選があり、令和元年５月２４日付で井上直樹議員が議長に就任いたしましたので、松井紀博委員の後任として任命したいと考えています。

ご審議の程、よろしくお願いします。

原教育長

ただいまの議案第１９号について、何かご質問等ございませんか。よろしいですか。

委員一同

はい。

原教育長

それでは、ただいまの議案第１９号について採決を行います。

原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

原教育長

それでは、原案どおり承認します。

議案第２０号　　市民図書館の休館について

原教育長

続いて、議案第２０号「市民図書館の休館について」説明をお願いします。

井上市民図書館副館長

議案第２０号「和歌山市民図書館の休館について」ご説明申し上げます。恐れ入りますが、席上配布しております「差替」の議案の方をよろしくお願いします。

市民図書館本館は、本年４月から新館への移転準備作業を開始し、業務を縮小しながら開館していますが、本館跡地利用に伴う専門職大学が認可された場合、本年８月末をもって休館いたします。休館後は速やかに撤去作業にかかり、９月末を目途に施設を明け渡します。

ただし、大学が認可されなかった場合には休館せず、９月からもこれまでどおり開館します。

市民の方々に対しましては、裏面のお知らせを速やかに市のホームページや図書館のホームページへ掲載するとともに、本館、西分館、コミュニティセンター図書室でのチラシの掲示などを行い、広く市民に周知して参ります。

本館が休館している間は、開館している西分館やコミュニティセンター図書室、移動図書館を利用していただくことで、利用者のご不便を最小限にしたいと考えています。

ご審議の程、よろしくお願いします。説明は以上です。

原教育長

ただいまの議案第２０号について、何かご質問等ございませんか。よろしいですか。

委員一同

はい。

原教育長

それでは、ただいまの議案第２０号について採決を行います。

原案どおり承認してよろしいでしょうか。

委員一同

はい。

原教育長

それでは、原案どおり承認します。

続いて秘密会となりますが、秘密会に入る前に「その他」で何かありませんか。

８　その他

中村教育政策課長

次回の教育委員会定例会の日程について、報告をさせていただきます。次回の教育委員会定例会は令和元年８月８日（木）午後１時３０分から教育委員室で開催いたしますので、よろしくお願いいたします。

原教育長

他に何かございませんか。ないようですので、これより秘密会に入ります。

関係職員以外は退室願います。

９　非公開事案

議案第２１号　　令和２年度使用和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程教科用図書の採択について

―以下『』部分については非公開とする―

『

原教育長

これより７月定例教育委員会を再開いたします。

それでは、議案第２１号について説明をお願いします。

中北学校教育部長

これより、令和２年度から使用する和歌山市立小学校及び義務教育学校前期課程で使用する教科用図書採択のための臨時教育委員会　第３回採択審議をお願いいたしたく存じます。

去る令和元年７月１１日に、第１回採択会議を開催し、図画工作、社会、地図、理科、生活の５教科・種目について、また、令和元年７月１８日に、第２回採択会議を開催し、家庭、音楽、書写、算数、外国語の５教科・種目について、ご審議いただきました。本日は、国語、保健、道徳の３教科・種目について、本市の子供たちにとって、最も適切な教科書を採択するためのご審議をお願いするものでございます。

よろしくお願いいたします。

それでは、これより事務局説明を、教育研究所長　岡本に行わせます。

岡本教育研究所長

本日の採択会議日程について、先にご説明を申し上げます。

これより、選定委員会の答申を受け、国語、保健、道徳の順にご審議をいただきます。ご答申は、選定委員から教科・種目ごとに、１社ずつ行っていただきます。

答申のあと、質疑応答のお時間を設けたいと存じます。

質疑応答が済み次第、選定委員には退出していただきます。

選定委員の退出後、教育委員会の皆様にはご審議をお願いしたいと存じます。

それでは、国語の答申及び答申資料のご説明をいただきます。

国語は、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書の４社です。皆様は、お手元の答申資料をご覧ください。

国語のご答申は吉原選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願いいたします。

原教育長

吉原選定委員、国語のご答申及び答申資料のご説明を東京書籍から順にお願いいたします。

【答申　国語】

吉原選定委員

「国語」の答申をいたします。

国語は、４社ございます。選定委員会として調査・審議し、まとめた内容を１社ずつ申し上げます。

最初は、東京書籍についてです。

（東京書籍）

答申

１年間の学習の進め方を参考に、「〇年生で学習する言葉の力」を確認して取り組むことで確かで豊かな言葉の力を獲得できるように構成している。その上、論理的思考に必要な言葉の力を身に付け情報活用能力に生かすことを企図した教科書である。

内容として、扉は、詩と柔らかい表現の挿絵で２ページをのびやかに占めています。言葉のもつ美しい響きに触れその後の学習に期待が持てるようにしています。

上巻のスタートは「話す・聞く」「書く」の教材を通じて気付いたことから「一年間の学習に生かそう」で話し合いをして、その後の学習に生かす設定となっています。興味・関心を引き出す試みといえます。

各学年で、同じ子供のキャラクターが登場し、その子供たちが、学び手と同じように成長しながら吹き出しで学ぶべき事柄を案内したり、課題について話し合ったりするため、課題を身近に感じ、主体的に学習を進めることができます。

各巻の第一単元は音読や朗読に重点を置いた教材です。情景や心情を想像しながら、声に出すことで、言葉の響きを体感するようにしています。

〇年生の本棚ではたくさんの本が紹介されています。「本は友達」で作家や有名人の読書体験を紹介しています。

５年生の説明文「新聞記事を読み比べよう」、６年生の説明文「インターネットの投稿を読み比べよう」と２年続けて、実生活と密着した情報を読みぬく力を付けようとしています。また書き手の立場・意図や自分の捉えに目を向けさせ、実生活での活用を投げかけている教材です。

次は学校図書についてです。

（学校図書）

答申

巻末の「先生と保護者の方へ」の中で「言葉の力は生きる力そのものです。」と示すように、学び手が発達段階に応じ、言葉を着実に習得し活用できるよう、単元やコラムを配列して豊かな対話者・書き手・読者となっていくよう企図した教科書である。

内容として、１年生下巻から全学年で、表紙をめくると迫力・臨場感のある写真と学年に応じた詩を見開き２ページで掲載し想像力を掻き立てています。

３年生以上の学年で、目次に続き、『「みんなと学ぶ　小学校　国語」の使い方』、『〇年生の国語の学習をはじめましょう』を示して、当該学年における国語の学習の進め方や内容を年間分見通せるようにしています。『国語の学習では、「言葉がもつよさを知る。」「言葉への感覚を豊かにする。」「国語の大切さを知り、高めようとする意識をもつ。」ことに注意して取り組みましょう。』と明記して、言葉の学習を進めていくことを強調しています。

「言葉集め」「たね集め」の投げかけがあり、日常的に言葉を意識し、作文や詩作に役立てるように呼びかけています。

上巻は１つ目の単元の前に「言葉でつながる」の学習を置き、ペアや集団で言葉遊びや対話を通じて言葉の使い方を学んだり、人間関係作りに取り組んだりするようにしています。

下巻は１つ目の単元の前に「言葉から想像しよう」の学習を置き、言葉のイメージやつながりに目を向けるようにしています。

５年、６年の上巻で扱われる説明文や意見文では、主教材の後に「視点を変える」と称して同一テーマの説明文を載せ、文章理解にとどまらず、比較することで自分自身の考えを深められるようにしています。

文学作品や説明文の最後に「国語のカギ」のコーナーを設け、大切な用語や読み取る上で大切にしたいことを解説し、理解を補っています。

「レッスン」と銘打った学習では、文章の書き方やまとめ方、表現の工夫などをトピック的に取り扱っています。

次は教育出版についてです。

（教育出版）

答申

豊かな言葉を身に付けることを目標に、学習の進め方が単元ごとに示され、ステップを踏まえて学習に取り組むことができる。また、身近な話題を発達段階に応じて伝え合う言語活動を配列して、実生活で活用する力を育むことを企図した教科書である。

内容として、全学年の上巻（１年は下巻）の扉は、教科書のタイトルに使われている「ひろがる言葉」が織り込まれた４行詩をイラストとともに掲載しています。ひろがる言葉にそれぞ

れ続く一文があります。１年、わたしたちなかよし。２年、心と心をつなぐ。３年、みんなの声がひびき合う。４年、「みんな、なかま」とこたえ合う。５年、新しいことを知る喜び。６年、わたしたちは力強く前に進む。

鳥のキャラクターを用いて、吹き出しで大事にしたいことや学ぶべき事柄などを案内していて読み手の目にとまりやすい工夫をしています。

上巻（１年は下巻）は目次の次のページが見開きで、学年で学ぶ内容を三領域に分かりやすく、通路を歩いて進んで行くように分類しています。随所に登場する鳥のキャラクターが、ここでは「どんな言葉と出会うかな。」とつぶやいて、言葉の学習であることを意識させています。

「読む」単元の初めには必ず扉のページを付け、単元で学ぶ領域・目標・本文に関わる一文を示しています。

読み物教材は、「１たしかめよう」「２考えよう」「３深めよう」「４広げよう」の順で学習の手引きを構成しています。併せて下段で、キャラクターの子供が会話をする形で考え方を補助しています。

「ここが大事」を各所に配して、学習の重点を強調しています。

３年上、４年上の説明文の学習は２教材がセットとなっています。１教材目は、脚注や頭注で学習の進め方を丁寧にリードして２教材目で活用できるようにしています。

単元の最終には「言葉を学ぼう」「言葉をふやそう」のコーナーがあり、語彙獲得を常に意識しています。

それぞれの学年で、テーマの似た複数教材を複合的に学ぶ単元を設定しています。例として、３年生、絵文字の特徴をとらえよう、「世界の人につたわるように」（話す・聞く）、「くらしと絵文字」（読む）、「絵文字で表そう」（話す・聞く）。６年生、「心の世界」について考え、自分の考えを伝え合おう、「あなたはどう感じる？」（読む）、「ぼくの世界、君の世界」（読む）、「「うれしさ」って何？　－哲学対話をしよう」（話す・聞く）などです。

最後は光村図書についてです。

（光村図書）

答申

多様な言語活動を通して豊かな言葉の獲得を目指している。読むことの領域では「とらえよう」「ふかめよう」「まとめよう」「ひろげよう」の手順で、学び手が進んで読み進められるように学習の手引きで示し、その後「たいせつ」として振り返りや確認ができるようにしている。学び手の主体的な学習を企図した教科書である。

内容として、１年生下巻から全ての学年で、とびらに低学年ではまどみちお、高学年では羽曽部忠の各教科書に標されたタイトル、例えば１年下では「ともだち」のとびら詩を掲載し教科書を開いていく興味を持たせています。

上巻の始まりは「言葉の準備運動」が配され「話す・聞く」の対話の活動からスタートし、

国語科の授業開きを計画しています。

２年生以上の教科書は、単元の始まりは、単元目標が明記されその教材での学習内容を端的に示しています。「読む」教材では左ページに題名とともに教材に関するメッセージを添えていて、問題解決的な学習を意識してページをめくると本文が始まる構成にしています。

３年生以上の１学期に扱う説明文は２教材がセットとなっています。１教材目には「練習」と明記していてその教材で身につけた読み方が２教材目で定着される仕組となっています。また、段落のまとまりが意識できるように、「初め」「中」「終わり」が色の帯で示され、文章構成を見通すことができます。

「言葉」と銘打たれた学習では、学年相応のトピックが紹介してあり、自分自身の言語生活を豊かにし、理解が深まるように構成しています。

「季節のことば」は、四季それぞれに関する言葉や俳句・短歌が取り上げられ、折々の生活やこれまで大切にしてきた文化などが感じられます。

２年生から巻末に「言葉の宝箱」を設け、語彙を増やすと同時に作文や詩作、対話等に役立てられるようにしています。

以上です。

原教育長

ありがとうございました。ただいま報告いただいた内容について質問等がありましたらお願いいたします。

１点、東京書籍に関してなのですが、説明で、各巻の第一単元で朗読や音読に重点を置いているということが東京書籍の特徴として言われていたと思うのですが、他の教科書に比べて特に顕著な特徴なのですか。

吉原委員

はい。他の教科書でも、光村図書でも朗読、音読ということに重点を置いておりますが、東京書籍はそれを一番前面に押した形になっています。

原教育長

例えば、具体的にそういった部分を把握しようと思った場合、どういったところを見ればいいのか。例えば、例示していただければ。

吉原委員

例えば、東京書籍３年生上巻の１７ページをお開きいただけますか。この右側のページを見ていただくと分かりますように、物語を音読しようという大きなタイトルを打ち出してきて、それに対しての手引きが、２６ページにあるのですが、この物語を音読するために、この辺りを抽出して、ちょっと気持ちや様子、情景などを浮かべて音読に力を入れてやりましょうというような扱いに各学年の第一教材がなってあります。光村図書でも音読に力を入れているのですが、やっぱり、心情面を読み取ることをしてから音読しようという形になっています。東京書籍は声に出すということを中心に据えているかなと感じました。

原教育長

他に質問はございませんか。よろしいですか、特にないでしょうか。

それでは選定委員の吉原様ご退出下さい。ありがとうございました。

それではこれより審議の方に入ります。

国語は全ての教科の基盤となる言語能力を育成することを根幹として、言語を通して、自然・社会・人間の生き方等について子供に正しく豊かな認識を育て、自己形成に寄与していくという教材であります。あらためて本市の子供たちの国語力の課題として、言語能力の定着および、それを活用して表現する力の育成、また、読書量の少なさ、互いの立場を尊重し適切に表現する力、等が挙げられています。

それではお一人お一人お調べ下さったことやお考え等を出していただいて、本市の子供たちにとって、国語力の育成にふさわしい教科書の審議をお願いいたします。

４社あるので、２社程度をお出しいただければと思っていますのでお願いします。

どなたからでも結構です。

波床委員

私は東京書籍が第一順位で、光村図書を第二順位と考えました。私の選定の考え方というのは、先日の市町村の連絡協議会、そこで和歌山大学教育学部の先生がおっしゃっていたのですが、やはり、読解力というのでしょうか、きちっと文章を読める力が極めて大事であると。そして色々な例を挙げられて、「こういう文章を読めない人はこれくらいのパーセンテージいる」というような指摘もあったりして、私はやはり読解力の養成を基本にしながら、書く力、聞く力、話す力、こういったものを養成していくことが大事だと思います。その意味では読む教材が充実していて、それに即して、もしくは別建てでもいいのですが、「作文や討論ができる」のような教材が望ましいと思っておりまして、その観点からいきますと、東京書籍は低学年から分かりやすい読み物が配置されており、それに即して上手な課題設定がなされていると思います。例えば、２年の下巻での「かさこじぞう」。４年の下巻で「ごんぎつね」。５年で「注文の多い料理店」。６年で「海の命」。その他色々分かりやすい読み物がある。しかも、その取り上げている各教材の獲得目標も、各学年の巻の初めの「目次」であったり、「ことばの力」であったり、明示されてあって、教えやすい。そして、これは個人的な趣味であるかもしれないのですが、６年生の終わりに、日野原重明さんの「きみたちに伝えたいこと」という随筆文があり、これは是非子供たちに読ませたいなと思う次第です。光村図書も同じような視点を持っていると思いますので、いいのですが、やや東京書籍より線が細いかなという気がいたします。以上が私の意見です。

藤本委員

私も波床委員と同じで、１番が東京書籍、２番が現在使っている光村図書というように考えております。先程音読のところもよかったのですが、１年生の上巻の４８ページ。よく１年生の子供が「～へ」や「～は」というようなことで、自分の子供もそうだったのですが、間違う所があるのですが、この部分、子供が「空は青い」というときの「は」をこのように黄色で書いて、そこへ貼っていっているというこの部分なのですが、これをもの凄くいいなというように思って、このつまずいているところを直していこうというところで、いいなと思いました。

それと各学年なのですが、今回もの凄く東京書籍は説明文に力を入れているなと読ませてもらっていて思いました。その説明文も４つ程度あるのですが、一番初めに難しい説明文を持ってくるのではなく、段階をつけて、１学期に「軽いもの」、そして「少し軽いもの」というようなところで最後に、「難しいもの」を持ってきているというところで、もの凄く配置も考えているなというように思いました。ちょっと光村図書の内容もいいのですが、今回は光村図書の６年生の表紙があまり好きではない。それに比べて東京書籍は上手に、シンプルイズベストでしてあるので、現行は光村図書なのですが、６年生は表紙がこれがというのがあったので、ちょっと２番手にしました。以上です。

森﨑委員

私は逆で、光村図書が１番、２番が東京書籍です。光村図書は国語の大事なのは何かということから考えまして、光村図書は話すということから１年生はスタートしていて、説明文は少なく、自己紹介に入り、助詞の「が」からスタートして入っていくということで、無駄な進め方がないように思いました。

東京書籍が２番になったのは、途中引っかかるところが、先生方が言って下さっていたように、順序立てて「話す」、「書く」が細やかに１年生の下巻などでは、役割を作り、できるから、言葉の説明力、思い出して、順序立ててというように、細やかに進められているのですが、一つ引っかかったのは、１年生の上巻の６０ページくらいにある、手をたたいて文字を表すというところです。これは必要なのかな、一つ覚えることが増えるのではないかなと思いまして。東京書籍の上巻の６０ページ。ここからですね、「ねこ」。「ねこ」、「ねっこ」（それぞれ手拍子を付ける）。なぜ、ここでわざわざ手をたたいて数える必要があるのかな。これまた伸ばすのがあるのです。７８ページに。「いしや」、「いしゃ」（手拍子を付ける）。「びょういん」はたたいてぎゅっと下ろすのですね。「びょういん」ねじってたたいておろす。「びょういん」ねじってたたいておろす。これは必要かなって思い、これが引っ掛かりまして、2 番にしました。

打田委員

ちょっと自分の中で順位がつけられなかったのですが、先生方と同じで光村図書と東京書籍を選ばせていただきました。多分、光村図書は子供たちの教科書を見ているからか、見やすいですし、イメージを持って読みやすいのではないか。

東京書籍は１年生の時から藤本先生もおっしゃっていたように助詞のところをしっかりと載せているのがいいのかなと思い、この２社をお願いします。

原教育長

私は、今年に限っては、今までは和歌山市は光村図書が多かったが、今年は東京書籍の方が上ではないかというように思います。目に入ってくる感覚が今年はもの凄く新しいというか、特に１年の上巻のところについては、際立って新入生からすればいいのではないかという思いが自然とします。内容はともかくとして。今まで東京書籍はこのように表紙に大々的にやっていたのか。

岡本教育研究所長

今年の教科書を見ますと、東京書籍の特徴として、とても表紙がシンプルになっているというのが特徴の一つかと思います。

原教育長

今までここまでシンプルではなかったのではないですか。第一印象として、１年の教科書を並べてみたときに、際立って、子供が興味を持てるような作りにしているのではないか。中身に入っていくために、目線を先に興味関心を持っていく。それと先程、吉原先生も言ったように音読に力を入れているというところが、国語を学習するうえで最も大事ではないかなと思います。音読のコンテストがあるが、市立の学校があまりない。発表している子の力というのはやはり凄い。もちろん中身を理解していなくて言っているのではなくて、内容を理解した上で、言葉で声に発している。そういう意味では普段から授業中からそういったことを意図して取り組んでいないとできないのではないかなと思う。そういう意味もあって、今年は東京書籍の方がいいのではないかなと私は思う。東京書籍、光村図書の２つになるのかなと思います。２つに絞るということですよね。では、以上でよろしいですか。

委員一同

はい。

岡本教育研究所長

続いて、保健の答申及び答申資料のご説明をいただきます。保健は、東京書籍、大日本図書、文教社、光文書院、学研教育みらいの５社でございます。

保健のご答申は南方選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願いいたします。

原教育長

南方選定委員、保健のご答申及び答申資料のご説明を東京書籍から順にお願いいたします。

【答申　保健】

南方選定委員

選定委員の南方です。これより「保健」の答申をいたします。

保健の教科書は５社ございます。選定委員会として調査・審議し、まとめた内容を１社ずつ申し上げます。

初めに、東京書籍です。

（東京書籍）

答申

学習活動（『気づく・見つける』『調べる・解決する』『深める･伝える』『まとめる・生かす』）の展開をステップを踏みながら、学習課題を解決できるように工夫されている。さらに、学習内容に関連した資料を各項末に掲載し、学習の関心を家庭・地域、調べ学習へ広げていくことができる教科書である。

教育基本法の理念・学習指導要領の主旨・和歌山市学校教育指針に示す「めざす子供像」の観点から。本文や「資料」では、健康についての知識を端的に記載し、幅広い知識と教養を身に着け、健やかな身体を養うことができるようにしています。

学習活動ステップ３「深める・伝える」で、協同学習の場を設定しています。

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、主体的・対話的で深い学びとなるよう、項目をステップ１からステップ４で構成し、それぞれのステップの活動を工夫しています。

教科の指導内容に即した発行者ごとの特色と工夫について。A４判を生かして記入スペースを多く設け、「ステップ１」から「スッテプ４」のそれぞれで、思考・判断・表現したことを書き残し、学びを振り返ることができるようにしています。

各章の終わりに「学習を振り返ろう」を設け、自分の生活に生かせる工夫をしています。

児童の理解度を高めるために、無料のデジタルコンテンツを示すＤマークを用いて自主学習や、自主的な家庭学習を促しています。また、D マークの内容についても、詳しく示されています。

各項末に、学習内容に関連した情報を資料として掲載しています。また、児童が知りたい情報を、豊富に掲載しています。

次に大日本図書です。

（大日本図書）

答申

児童の興味・関心を引き出し、スムーズに学習に入ることができるように工夫し、簡潔な文章でまとめられている。また、学習の流れがひと目でわかり、いろいろな活動を通して課題を解決し、学習したことを活用して深めていくことができる教科書である。

教育基本法の理念・学習指導要領の主旨・和歌山市学校教育指針に示す「めざす子供像」の観点から。教科書をどのように使用して学習を進めるかを図で示し、児童が学習の流れを理解し、見通しを持って学習を進めるように考えられています。

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、保健の見方・考え方をはたらかせて話し合う活動を多く設定しています。

教科の指導内容に即した発行者ごとの特色と工夫について。各章の初めの「学習ゲーム」で、児童が学習の課題に気付き、身の回りの生活に関係のあることだと知り、意欲的に取り組めるように工夫しています。

学習したことを活用し、学びをより深める活動として、「活用して深めよう」を設けています。また、学習したことを他の場面に応用し、自分の生活を振り返ることで「深い学び」につながるように工夫しています。各章のまとめとして「学習のまとめ」を設け、学習したことを振り返って自分を評価し、自分の課題を見つけていくことで、章全体を通した「深い学び」を実現しています。

WEB サイトを取り上げ、動画や資料を使って、学習することができることを WEB マークで

紹介しています。

次に文教社です。

（文教社）

答申

全単元に、運動の大切さがわかるような工夫をしている。また、身近な生活行動・生活環境の中から学習課題を見つけて、自ら解決、理解できるようにしている。さらに、その解決に至る過程を思考し、判断できる学習課題を設定することにより、知識、技能をより自分のものにすることができる教科書である。

教育基本法の理念・学習指導要領の主旨・和歌山市学校教育指針に示す「めざす子供像」の観点から。習得した知識をもとに、道徳心を培うことができるような実習を取り入れ、より自分自身のものとして、学習したことを実践できるようにしています。また、欄外での「つぶやきくん」の言葉で知識を広げ、まわりの人たちへの感謝の気持ちなどを理解することができるようにしています。

自然災害への対処を、自助・共助・公助の観点から理解し、より実践的な行動をとることの大切さを意識させるために取り上げています。

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、「話し合ってみよう」という活動を多く設定しています。

教科の指導内容に即した発行者ごとの特色と工夫について。自ら設定した課題を解決していくための活動として、「考えてみよう」や「調べてみよう」という発問によって学習を進めていけるようにしています。

単元の終わりの「新しい自分にレベルアップ」として、記述する欄を設け、思考する力、判断する力、表現する力を自然と身に付けることができるよう工夫しています。

各学年の章末には、「みんなで宣言しよう！」として、宣言を記載するページを設け、学習したこと、理解したことを踏まえ、その過程を自分や友達と考え、伝え合うことでこれからの生活や学習に生かせる工夫をしています。

Ａ４判とし実験結果や写真、グラフや表などの資料を用い、健康に関する興味を持たせるだけでなく知識の習得、定着が図れるよう工夫しています。

次に光文書院です。

（光文書院）

答申

児童の学習意欲を高めるように工夫し、毎単元に「はじめに」「学んだことを生かそう伝えよう」の活動を設け、「自分ごと」として　学習課題を捉え、主体的な課題解決学習を行えるようにしている。また、言語活動の充実を図るため、話し合い活動や記述する活動を多く取り入れ、自分の考えを広げたり、深めたりしていくことできる教科書である。

教育基本法の理念・学習指導要領の主旨・和歌山市学校教育指針に示す「めざす子供像」の観点から。児童が自分の健康課題を見つけ、その解決に向けて自らすすんで学び、考える力を育成できるように工夫をしています。

主体的・対話的で深い学びの実現に向け、児童が自分の課題を見つけ、その解決に向けて自ら進んで学び、考える力を育成できるように様々な工夫をしている。

教科の指導内容に即した発行者ごとの特色と工夫について。

１時間を原則見開き１ページで学習することを基本とし、「導入」「学習課題」「学習活動」「まとめ」「活用」の学習の流れを示し、学習の流れが一目でわかるように工夫しています。

学習活動の指示文の前に「調べよう」「やってみよう」「考えよう」「話し合おう」のマークをつけ、活動のしかたを明確に示しています。

各章末に「学習のまとめ」を設定し、学習した内容を選択式の問題で確認し、振り返ることで学習内容の確実な定着を図るように工夫しています。

学習の導入として「はじめに」を毎時間設定し、児童がこれから学ぶ内容を「自分ごと」として捉えられるように、これまでの経験をもとに考えたり、自分の生活を振り返って自身の健康課題に気づいたりできる活動を設定しています。

毎時間の終わりには、学習したことを生かして取り組む、「学んだことを生かそう　伝えよう」の活動を設定し、学習した知識を実生活や実社会で活用できる実践力を育てられるよう工夫しています。

次に学研教育みらいです。

(学研教育みらい)

答申

「ここで学ぶこと」を設け、その時間で学習する課題を明示し、「つかむ」「考える・調べる」で生活や経験を振り返り、実験など実践的な学習活動を取り入れている。「保健の見方・考え方」を働かせながら、身の回りの事象や情報を健康や安全と結び付けて考えることができる教科書である。

教育基本法の理念・学習指導要領の主旨・和歌山市学校教育指針に示す「めざす子供像」の観点から。健やかな身体を養うことができるように、身近な生活における健康についての課題を随所に設定し、主体的・対話的に学習を進められるようにしています。

主体的に社会の形成に参画し、その発展に寄与する態度を養うことができるように、健康のためには、みんなで助け合い、支え合うことが必要であることを示しています。

教科の指導内容に即した発行者ごとの特色と工夫について。各章の扉では、学習内容の明示と児童が持つ疑問の例を示し、自らの課題を持って学習を始められるように工夫しています。

各項目の導入に生活を振り返りチェックする活動を設けたり、児童や教師などのキャラクターが語りかける形式を用いたりして、児童が親しみを持って主体的に学習に取り組むことができるようにしています。

「もっと知りたい・調べたい」で児童の探求心に応え、学習したことを広げたり、深めたりできるように詳しい資料を豊富に掲載しています。

章末の「振り返る・深める・つなげる」で、習得した知識の確認や学習活動の振り返り、思考・判断や表現する課題、生活へつなげる記述欄などを設けています。

最後に、各社とも、ユニバーサルデザインに配慮して編集されています。以上で説明を終わります。

原教育長

ありがとうございました。それでは、報告いただいた内容について質問等がありましたらお願いします。

森﨑委員

１週間に、何回の保健体育の授業がございますでしょうか。

南方選定委員

そうですね。１週間で言いますと、体育の時間というものが決められておりまして、保健の時間もそこでしています。だから、保健の時間が１週間でその時じゃなくて、集中して取り組むときもあるかと思うので、１週間にこれだけというふうには、しないと思うのです。

森﨑委員

この教科書だと１年間で３・４年生がこの内容が網羅できる感じですか。

南方選定委員

はい。

森﨑委員

ありがとうございました。

原教育長

他に、ご質問はございませんか。

文教社って、前からありましたか。

南方選定委員

はい、ありました。５社合わせて、ずっと。

原教育長

ここの後ろの、関わっているところを見たら、小学校の先生がほとんどですね。この教科書だけ。圧倒的に。

南方選定委員

多いですね。

原教育長

他の出版社は大学の教授とかが多いけど。

南方選定委員

まあ、そこは会社によってですね。

原教育長

他にご質問ございませんか。よろしいですか。はい、それでは南方選定委員、どうもありがとうございました。

原教育長

はい、それでは観点例としては、基礎的基本的な健康安全に関する内容の理解、また、心身ともに健全な生活を送る資質や能力ということですが。今日は２社程度の候補をお願いしたいと思っております。

いかがですか。参考までに、今現在、和歌山市で使っているのは、学研教育みらいです。

森﨑委員どうですか。

森﨑委員

ここの、答申にもありました、保健の見方・考え方をはたらかせながら身の回りの事象や情報を健康や安全と結び付けて考えることができるということや、事象や情報が満載にとり入れられているということで、学研教育みらいを１つ選びました。例えば、３・４年生の１０ページの体温とリズム、３３ページの睡眠とホルモンの関係があったり、戻って２３ページの手の骨、骨化ですね、骨に代わっていく写真があったり。５・６年生では８ページの脳の仕組みであったり、１１ページの脊髄のことであったり。というふうに、今、時間をお伺いしたのは、そこまで取り込めるのかなと、それをちょっと懸念されるのですが、体の仕組みやはたらきを知ったうえで、健康について考えるということで、情報が他のものよりも満載ということで、学研教育みらい１本で推薦させていただきたいと思いました。以上です。

原教育長

打田委員いかがですか。

打田委員

自ら解決理解できるようにしているというところで、文教社を考えています。

原教育長

文教社。そこだけですか。

打田委員

ちょっと迷っています。

原教育長

藤本委員はどうですか。

藤本委員

ちょっと迷っているのですが、東京書籍が１番で、２番が学研教育みらいということにしました。やっぱり、ページ数が多いということを先ほど森﨑委員も言われたのですが、東京書籍が３・４年が４５ページということで、少し多いですね。３７ページくらいのところが多いんですけれども、ちょっと多いですね。５・６年生に至っては８１ページというふうにちょっと多いんですけども、写真とかですね、データとかがものすごく良いなと思います。特に健康・

安全のところの部分なんですけども、飲酒というところは、僕はちょっと気にかかるところなんですけども、かなり丁寧なイラスト、わかりやすいイラスト、写真がものすごく他社よりもきれいだなというところで東京書籍を選びました。

そして、内容的にやっぱり保健のところで、続いては学研教育みらいが、内容的にも、写真、イラストそれから、つかむ、調べ、考える、それからまとめる、深めるというところで、徹底してそういう流れで問題解決的な学習の流れでやっているというところで、やっぱり学研教育みらいが良いなと思います。以上です。

原教育長

はい。波床委員。

波床委員

４つの目標設定といいますか、健康な生活、体の発育発達、心の健康、病気の予防。４つの目標をどの教科書もさして変わりないというか。私はそんなに甲乙、明確につかないように保健の場合思うのですが、しいて言えばですね、私も第１順位としたら学研教育みらいを推したいなと思う気持ちがあります。

ただ、森﨑委員がおっしゃったように、少し情報量が過ぎて、時間内にできるのかという疑問が自分の中にありまして。そういう観点からいくと、逆に私は光文書院のようなもののほうが、扱いやすいのかなと思ったりもします。したがって第１順位は学研教育みらいとしていただいて、光文書院を第２順位でお願いしたいと思います。

原教育長

ぱっと見て、あんまりごちゃごちゃしていないこの光文書院がいいのではないかと思います。見やすいし、理解的にもすっといくのかなという形で、光文書院。そして学研教育みらいかなというような感じがしています。勉強している時間というのはどれくらいありますか。これを使うのは、だいたい月のうちとか週のうちとか。

南方専門教育監補

各学期で、３時間４時間程度くらいかなと思います。１学期の間に４時間くらい、２学期の間に４時間くらい、３学期の間に４時間くらいという形です。

原教育長

月１時間から２時間くらいしかないのですか。

南方専門教育監補

先ほど選定委員さんがおっしゃったように、学期毎にかためて取ることが非常に多いような気がします。定期的にきちっと当てはめていくわけではなくて。学期毎にかためて３時間ずつという形です。

原教育長

わかりました。それを聞いて、いかがですか。ちょっと多いような気がしますね。

森﨑委員

ちょっと多いですね。

波床委員

多いですね。それだったら学研教育みらいは多すぎますね。

森﨑委員

難しい情報も入っているので、それを解読して伝えるとなると、先生方も苦労すると思います。

藤本委員

ちょっと教えてください。学習指導要領の時には、例えば、毛筆とか硬筆だったら、何時間くらいとか書いていますよね。それは保健のところは全然書かれていないのですか。中学校の武道だったら、１０時間程度とかそういうふうに書いているんですけども、そういうふうにも書いてないんですか。

岡本教育研究所長

時間数でございますが、中学年で８時間程度、高学年で１６時間程度というふうに記載されています。

原教育長

ということは、５・６年で１６時間ですね。３・４年は８時間ですか。

岡本教育研究所長

８時間程度ですので、学校に実態に応じて時間数が多くなったり少なくなったりするかと思います。

原教育長

はい、いかがですか。学研教育みらいは、皆さんが出してもらっているので、学研教育みらいは入ってくるので、その次いかがですか。候補としては、東京書籍や文教社になってくると思うのですが。

森﨑委員

２番をつければ、光文が２番で、東京書籍が３番という風に感じています。

原教育長

それでは、学研教育みらいと光文書院の２社でよろしいですか。

委員一同

はい。

岡本教育研究所長

続いて、道徳の答申及び答申資料のご説明をいただきます。道徳は、東京書籍、学校図書、教育出版、光村図書、日本文教出版、光文書院、学研教育みらい、廣済堂あかつきの８社でございます。

道徳のご答申は川端選定委員にお願いいたします。それでは、教育長よろしくお願いいたします。

原教育長

川端選定委員、道徳のご答申及び答申資料のご説明を東京書籍から順にお願いいたします。

【答申　道徳】

川端選定委員

選定委員の川端です。これより「道徳」の答申をいたします。

道徳の教科書は８社ございます。選定委員会として調査・審議しまとめた内容を１社ずつ申し上げます。

それでは東京書籍です。

（東京書籍）

答申

各学年の教科書を「導入教材」、「本編教材」、「付録」の３つで構成している。導入教材で学習の進め方と授業の様子を具体的に示すことで、授業にスムーズに接続することができる教科書である。また、読み物教材とは異なった形式の教材を開発し、様々な活動の中で議論させることを促し、児童の多様な考えを引き出すよう工夫されている。

教科書は、ＡＢ判で４年生は１６９ページ、３５教材となっています。教材は、生活文が多く、挿絵の大きさや表情、枚数も適切で、児童が生活経験をもとに考えられるよう工夫されています。定番教材は、全学年２６教材です。

６ページをご覧ください。折り込みページの「道徳の時間が始まるよ」のページで学習活動を紹介し、授業のイメージや学習意欲が膨らむように配慮されています。また、７ページの「みんなで話し合ってみよう」ではショートストーリーを読んで話し合い、授業の流れや様子を分かりやすく示し、児童が道徳授業のイメージをもって主体的に学習できるよう工夫されています。これはこの教科書だけの特徴です。

次に、学習指導要領に示されている項目の中で、各学年で重要と考える内容項目については、２ページの「これから１年間で学ぶこと」で２から３の複数教材の配置を示しています。

次に、教材についてですが、４年生１４９ページの「雨のバスていりゅう所で」をご覧ください。挿絵は３枚です。中心場面の絵は大きく、鮮明で表情もよく分かり、中心発問の内容とも合っています。教材の冒頭に教材のタイトルとともに内容項目を分かりやすい言葉で示した「学習のテーマ」を示し、児童が何を学習するかという見通しをもって学習に臨めるよう工夫されています。１年生２０ページをご覧ください。低学年は、導入として活用できる投げかけの言葉「はじめに」を掲載しています。

また、各教材末に、ねらいに迫るための中心発問例を示す「考えよう１」（行為の背景にある主人公の心情を問う発問）と学んだことを今後の生き方に生かしていくための発問例「考えよう２」の２つの発問例が示されています。２つの発問例によって場面が焦点化され、児童にとっては自ら考えを進めやすく、教師にとっても柔軟に授業展開を考えることができるよう工夫されています。

次に、３年生以上に掲載された問題解決的な学習「問題を見つけて考える」、例えば４年生の１０３ページでは、「とびらのページ」で問題意識を深め、次のページの「考えながら読もう」の言葉で教材を通して何について考えるのかを示しています。

続いて、学校図書です。

（学校図書）

答申

道徳的な価値や課題に気づかせる本冊「きづき」と気づいたことをもとに児童への活動を促す別冊「まなび」の２分冊によって一つの教科書として構成され、授業中活用の幅を広げることができる教科書である。

別冊「まなび」には、「きづき」に対応した発問と書き込み欄が設けられ、言語活動の充実が図られている。

教科書は、ＡＢ判で、４年生は１３６ページ、別冊４８ページとなっています。定番教材は、最も多く全学年で３１教材です。

４年生の目次をご覧ください。「いじめ問題」について多面的・多角的な観点から考えられるよう、直接的な教材や間接的な教材など多様な教材を全学年に５から６教材を配しています。そして、関連する教材には目次にある「ともにいきる」マークで示し、系統的に学びを深められるよう配列されています。

次に、本冊「きづき」の巻頭のオリエンテーションのページで、「道徳の学習を始めよう」と「学級づくり　○○○」（例えば４年生はつながりビンゴ）が示されています。また、「まなび」の巻頭では、「まなびの道しるべ」と「まなびの使い方」、「まなびを使って学習しよう」で道徳の学習の仕方について示されています。

次に「きづき」１１１ページの「雨のバスていりゅう所で」をご覧ください。挿絵は３枚です。中心場面の絵は大きく、表情も豊かで、児童が道徳的価値について考える時に思考の助けになります。本文の「きづき」には、内容項目、主題、発問例がありません。「きづき」の教材と「まなび」に発問例や主題名を分けて掲載することにより、児童が主体的に道徳的課題に気づき、焦点化して考えられるよう工夫されています。次に、別冊「まなび」の２７ページをご覧ください。別冊「まなび」では、見開きでユニットを構成しています。右ページの「こころのパレット」は、授業の導入や終末に活用することができるように構成され、左ページには、同じ内容項目の２教材と「やってみよう」「かんがえよう」（中心場面での発問例）「みつめよう」の発問マークを配し、学習の内容と活動が分かるように工夫されています。本冊の中心場面の挿絵は大きく掲載し、別冊の発問内容と挿絵が合っているので、児童は考えやすいといえます。

続いて教育出版です。

（教育出版）

答申

道徳で学習する課題の中から、「いじめをなくす」「生命を尊重する」「情報モラルを考える」を重点テーマとして位置づけている。教材ごとに、いくつかの発問で構成した「学び

の手引き」を設け、児童に問題解決的な学習を促すことにより、主体的に考え、議論しながら道徳的価値についての学びを深められるよう工夫された教科書である。

教科書は、Ｂ５変形判で、４年生は１９２ページとなっています。本教材３０本、それに加えて５本（１年は４本）の補充教材を設けています。写真は鮮明で、児童の学習にとっては効果的です。定番教材は、全学年１８教材です。

４年生の目次をご覧ください、教材は、児童に分かりやすい言葉で内容項目ごとにまとめて掲載し、マークについても説明されています。全学年で大切にしたい「生命の尊さ」と各学年で大切にしたい内容項目は、連続して学習することで道徳的価値について多面的・多角的に考えることができるよう工夫されています。また、巻頭のオリエンテーションのページは、シンプルで「道徳の学習が始まるよ」「道徳ではこんな学習をするよ」を設け、道徳の学習方法が示されています。

次に、教材の扱いについてですが、２８ページの「雨のバスていりゅう所で」をご覧ください。教材の最初にその教材で扱う内容項目を子供に分かりやすい言葉で示した学習のテーマとキャラクターによる導入で活用できる言葉を示しています。また、内容項目ごとに色や絵柄で区別して表現されているので学習の視点が分かりやすくなっています。挿絵は３枚です。表情は分かりにくく、中心発問「だまったままのお母さんの横顔を見て」と中心場面の絵が合っていません。

また、１３ページの教材末に設けた「考えよう」・「やってみよう」、「深めよう」、「つなげよう」で構成された「学びの手引き」により、問題解決的な学習を促し、子供が道徳的な課題について多面的・多角的に考えることができるよう工夫されています。また、キャラクターの発言は、児童の多様な考えを引き出すきっかけ作りに活用できます。

「考えよう」では、授業の展開段階で活用できる発問を２つから３つ設け、その中で「特に考えてほしい」発問（☆の発問）としています。全体的に、「どうして〇〇〇」のように行為についての理由を問う発問が多く見られます。また、発問例が多く掲載されているため、教師にとっては授業構想時に参考にできますが、児童にとっては焦点化して考えにくいといえます。また、教材の中には、２４ページのように発問に合った場面絵のない教材もあります。

問題解決的な学習に適した教材には、３６ページのように全学年２カ所、教材の前に導入ページを設け、児童の問題意識を高める工夫をしていることも特徴です。

続きまして光村図書です。

（光村図書）

答申

全学年とも、年間を３つのまとまりに分け、内容項目Ａ～Ｄの４つの視点が、まとまりごとに重点を置いて配置されている。現代的な課題については、教材とコラムを組み合わせた「ユニット」を形成して位置づけられ、確かな学習経験となるよう配慮された教科書である。

教科書は、Ｂ５変形判で、４年生は１９２ページ、３５教材です。全学年とも詩から始まる構成となっています。全体的には特徴的な挿絵が多くなっています。定番教材は、全学年で１９教材です。

４年生の目次をご覧ください。この教科書の特徴として、年間を３つのまとまりに分け、まとまりごとにテーマを設定し、内容項目の中で５カ所に重点を置いた教材が配置されています。

そして、５カ所（低学年は２カ所）に位置づけられたコラムには、４年生の４１ページのようにいじめ問題や情報モラル等の現代的な課題について、教材と組み合わせて考える内容が取り上げられています。

次に、４年生の４ページから８ページをご覧ください。２学年以上の巻頭に、主体的に考え、話し合うことが道徳の授業であることを児童に示す「道徳の時間」が設けられ、授業での考え方と学習内容が示されていますが、道徳の学習の流れは示されていません。また、「この本で学ぶみなさんへ」のページで印の説明をしています。

次に、教材についてご説明します。１２０ページ「雨のバスていりゅう所で」をご覧ください。冒頭には、教材タイトルとともに「主題」とキャラクターによる児童への「呼びかけの言葉」が示され、導入として活用することで、児童の経験や考えを引き出し、主体的に学習に取り組むことができるよう配慮されています。挿絵は４枚です。中心場面での絵と中心発問の内容が合っていないので、児童にとって、場面絵が思考の助けとはなりにくいといえます。

次に、全学年を通して、例えば１２３ページの教材末の「学習のてびき」には「考えよう・話し合おう」が設けられ、教材を通して何を学ぶか意識できるよう「めあて」（太字部分）と「発問」が２つから３つ置かれています。教材の中には、「どうして〇〇〇」と行為に対する理由を問う発問が多く見られます。

以上です。

次に、日本文教出版です。

（日本文教出版）

答申

本冊と別冊の２分冊構成であり、教材冒頭には、「主題名」「導入発問例」「あらすじ」「主な登場人物の絵と名前」が掲載され、教材内容が理解しやすい教科書である。 別冊として、教材ごとに作成された「道徳ノート」には、その巻頭において「道徳ノート」の使い方が示され、授業中の書く活動や振り返りに活用できるよう工夫されている。

教科書は、ＡＢ判で、４年生は本冊１８４ページ、別冊４０ページです。教材はすべて見開き単位となっており、挿絵が大きく、児童が集中しやすく思考の助けになる構成となっています。定番教材は、２９教材です。

次に、１ページから２ページの目次をご覧ください。そこに示されているように、現代的な課題「人との関わり」「安全なくらし」「情報モラル」「持続可能な社会」については、発達

段階に応じて各学年とも３回学習できるように配慮されています。

次に、１ページからのオリエンテーションのページをご覧ください。「道徳のとびら」や「道徳の学び方」では、学習内容やそのねらいと学習方法が写真とともに解説され、「考える道徳」「議論する道徳」が視覚的に捉えられるよう工夫されているのも特徴の１つです。

次に、教材について、５０ページの「雨のバスていりゅう所で」をご覧ください。冒頭には「教材タイトル」と「主題名」、「あらすじ」、「登場人物」を明示し、児童が道徳的価値と関連づけて思考を進めることができるように配慮されています。また、発問については、冒頭に「導入の発問例」、教材末に主人公の考えを問う「考えてみよう」、学習後の自己を見つめる「見つめよう生かそう」の３つの発問例が示されています。発問例が、焦点化されているので教師の指導構想に柔軟に生かすことができるといえます。

また、問題解決的な学習や体験的な学習に適している教材には、２２ページのように教材末に「学習の手引き」を挿入して、問題をつかむ活動や考える活動を促す発問が示されています。これは、全学年とも６カ所あり、目次にマークで示されています。

次に、別冊道徳ノートは、「もくじ」で使い方についての説明があり、１教材１ページの構成で使いやすくなっています。また、教材ごとに、本冊「考えてみよう」（中心発問例）の記入欄と自由記述欄があり、書くことを通して多面的・多角的に思考を深めることができるよう工夫されています。

続いて、光文書院。

（光文書院）

答申

各教材の冒頭に「導入」、末尾に「まとめる」（終末）と「ひろげる」（発展）を設置し、１時間の授業の目的や流れを明確に示している。児童が、経験や生活の中から「問い」をもって道徳的価値を理解し、実生活へ生かそうとする意欲を引き出すことができるよう配慮された教科書である。

各教材の冒頭に「導入」、末尾に「まとめる」（終末）と「ひろげる」（発展）を設置し、１時間の授業の目的や流れを明確に示している。子供が、経験や生活の中から「問い」をもって道徳的価値を理解し、実生活へ生かそうとする意欲を引き出すことができるよう配慮された教科書である。

教科書は、Ａ４変形判で、４年生は１８０ページ、３５教材と補充教材５本（１年生は６本）となっています。また、教材は、生活文が多く、生活経験をもとに考えられるよう配慮されるとともに、写真やイラストが引き立つようレイアウトされています。定番教材は、全学年で１８教材です。

４年生の目次をご覧ください。学習指導要領の「重点的な指導を必要とすることがら」について、発達段階に応じて、連続的に扱うことでより効果が得られる教材を重点主題（「規則の尊重」「友情・信頼」「生命の尊さ」）としてユニットを形成しています。

次に、いじめ防止については、いじめ防止に関する教材として全学年３から７教材配置され、目次にハートマークで示されています。

次に、２ページから９ページのオリエンテーションをご覧ください。「さあ、道徳の学習が始まります」が設けられ、道徳の学習内容、学習方法、家庭地域へのつながりが掲載されています。また、５ページには「この本の使い方」を掲載し、その中で、道徳ノート例も示されています。道徳ノート例を示しているのはこの教科書だけです。

次に教材についてご説明します。１００ページの「雨のバスていりゅう所で」をご覧ください。挿絵は、５枚あります。挿絵は大きく特徴的ですが、中心場面の挿絵が２人とも横顔で、児童にとっては思考の助けとなる挿絵の表情が分かりにくいと言えます。また、教材の冒頭には教材タイトルとともに「主題」と導入で活用できる「問い」を設定し目的意識を明確にした上で学習に取り組めるよう工夫されています。また、教材内の登場人物を分かりやすくするために、１０ページのように、冒頭に整理して表示しています。また、各教材には、児童に寄り添うキャラクターを設定し、教材末ではなく本文下に共感や気づき、考えるためのポイントや考えを広めるための見方など様々な視点での問いかけ（発問例）の言葉を掲載しています。これもこの教科書の特徴です。問いかけが多く、児童にとっては、焦点化して考えにくい教材もあります。

以上です。

学研教育みらいです。

（学研教育みらい）

答申

児童が主体的に課題を発見し、多様な考え方や感じ方に触れながら自己の考えを深めていけるよう工夫されている。各学年とも、４種類の「学び方ページ」（「つなげよう」「ひろげよう」「ふかめよう」「やってみよう」）を本教材と組み合わせることで多様な学びの展開ができる教科書である。全学年「命の教育」を最重点テーマとして、複数教材を連続して学習することで、広い観点で深く学ぶことができる構成になっている。

教科書は、Ａ４判で、４年生は１５６ページ、３５教材となっています。また、写真は大きく、興味を引きつけるよう工夫されています。定番教材は、全学年で１８教材です。

目次をご覧ください。命の教育を最重点テーマとして位置づけ、全学年、複数教材を連続して学習するユニット形式で、広い観点で深く学ぶことができる構成となっています。また、発達段階や、児童の実態に応じて、２学年ごとの重点テーマを設け、異なる内容項目の複数教材を用いて確かな学びを実現できるよう工夫されています。例えば、中学年の重点テーマは「みんなと仲よく」となっています。

また、４種類の「学び方のページ」〈深めよう〉〈つなげよう〉〈やってみよう〉〈広げよう〉を随所に設けたことで、話し合い活動を活発にしたり、教材から離れて考えたり等、道徳的価値を多面的・多角的に考えられるよう工夫されています。

４ページから９ページに道徳の学び方を紹介するページ「道徳の学習が始まるよ」と学びの全体像をつかむページを掲載し、その中で学習方法や学習内容が示され、１年間見通しをもって学習できるよう児童の学びやすさに配慮されています。

次に、教材についてですが、３６ページの「雨のバス停留所で」をご覧ください。挿絵は３枚です。大きさはほぼ同じで、中心場面の挿絵は、登場人物の表情が分かりにくくなっています。また、主人公が、お母さんの横顔を見ていないので中心発問内容と挿絵が合っていません。冒頭には、内容項目の視点と教材タイトルだけを記載し、児童の「問い」（問題意識）を大切にするため本文中に主題名を記載しない構成・展開になっています。

また、教材末に、「かんがえよう」のコーナーを設け、自己を見つめるきっかけとなる投げかけや行為についての考えや理由を問う２つの発問例が示されています。発問例が焦点化されているので、教師にとっては柔軟に授業構想を考えやすいといえます。各学年の巻頭に「自分のことを書いてみよう」、巻末に「心の宝物」を設け、児童が自身の成長を振り返り、課題や目標を見つけることができるようにしています。これも特徴の１つです。

最後は廣済堂あかつきです。

（廣済堂あかつき）

答申

「みんなで考え、話し合う」ことができる本冊と「自分を見つめ、考える」ことができる別冊（道徳ノート）の２分冊構成とし、指導者の展開構想や児童の学習状況等に応じて多様な授業実践ができる教科書である。

教材ごとに設けた「考えよう　話し合おう」の問いと「道徳ノート」の書き込み欄との併用によって、道徳的課題に向き合えるよう工夫されている。

教科書は、ＡＢ判で、４年生は１３２ページ、別冊４４ページ、３５教材となっています。目次や教材冒頭は、シンプルで、本文の挿絵や文字も少し小さめです。定番教材は、全学年１８教材です。

学習指導要領に示された内容項目の中で、全学年を通して、いじめ防止と関わりが深い内容項目「善悪の判断、自律、自由と責任」「親切、思いやり」「生命の尊さ」を重点項目として、これらに関する教材をそれぞれ３教材、３時間を配当し、「いじめをしない、起こさない」心を育てることに重点を置いています。

本冊巻頭のオリエンテーションのページに詩と「道徳の時間はこんな時間」が掲載され、学習方法が言葉のみで説明されています。言葉のみの説明ですので、児童にとっては、道徳の授業がイメージしにくいといえます。

次に、４３ページの「雨のバスていりゅう所で」をご覧ください。教材の扱い方については、冒頭はシンプルで、教材のタイトルとともに学習のテーマが掲載され、その下には、内容項目（○印の数）と道徳ノートの対応ページが示されています。

また、４５ページの教材末に掲載されている「考えよう　話し合おう」の問いをもとに、主

体的・対話的に深い学びにつながるよう工夫されています。低学年では発達段階を考慮して２つの問い、中・高学年については「学習の道すじ」と題して「めあて」（太字の部分）と３つから４つの「発問例」が示されています。発問例が多く掲載されているため、経験の浅い教師にとっては参考にできますが、児童にとっては、ねらいに迫るための中心場面の挿絵が小さく、表情も分かりにくいため、多面的・多角的に考える学習が深まりにくいといえます。

次に、別冊１３ページをご覧ください。別冊の道徳ノートにおいては、「自分を見つめ、考える」ことができるよう、児童の発達の段階に応じた分かりやすい表現で道徳的価値（内容項目）が端的に解説されています。また、授業を通して考えたことや感じたことを記述する書き込み欄や一定期間のまとまりで書き込みができる「学習の記録」「話し合い活動の記録」「心に残っている授業の記録」、さらに学びを自己評価することができる「心のしおり」が用意され、言語活動の充実を図ることができるよう工夫されています。

８社の主な特徴については以上です。

尚、各社ともＱＲコードが掲載され、アクセスすると写真等の資料が見られるようになっています。

原教育長

ありがとうございました。ただ今報告いただいた内容について質問等がありませんか。

波床委員

ご説明の中によく出てきた言葉で「定番教材」について、ちょっと確認させていただきたい。どういうものを定番教材とおっしゃっているのか。

川端選定委員

例えばですね。定番教材の中で古い教材ですと、昭和３０年代に作られた資料もあるんですね。これは古い資料で結構たくさんの先生方が研究されて、実践もされてきている資料ですので、若い先生方が、この資料を使って子どもたちに授業実践をしていく上では非常に勉強になる教材かなというふうに思っております。

波床委員

具体的に、どこかの教科書を用いて、定番教材はこれだというのをお示しいただけませんか

川端選定委員

例えばですね、私が例に挙げた「雨のバス停留所で」も一つなんですね。後、例えばですね、たくさんあるんですが「絵はがきと切手」というのもあるんですが、例えば、最初の東京書籍でいいますと、４年生をちょっと見ていただけたら。目次を見ていただくとわかると思いますので。資料名を申し上げます。「お母さんの請求書」、それから「花さき山」。そしてもう一つが４年生であれば「雨のバス停留所で」。同じく東京書籍の１年生で言いますと「はしのうえのおおかみ」。これは昭和３０年の後半にできた、文科省の、当時は文部省といっていましたけれども、の資料です。昭和３０年ですから５０年以上も、やり尽くされてきた資料だと思うんですが、そういった長い間、たくさんの先生方によって研究され実践されてきた資料を定

番教材という形でいっております。

藤本委員

小学校の道徳の授業を見させてもらう中で、道徳的価値がもうずれてしまって、はじめはそこへ行っているんだけど、だんだん終わるときに、友情かどうかわからなくなってしまうというような授業もあったりとかですね、中心発問がずれている。初めからもうずれているような授業もかなり見させてもらったところがあったんです。だからそれを書いていない教科書の方がいいんじゃないかと考えていたんですけど、こういうふうに今８社の中で、川端選定委員はどのようにその中心発問というか、考えさせるところの部分を書いてあったりですね、道徳的な価値を書いている方がいいかというのを意見として聞かせていただけたらありがたいなというふうに思うのですが。

川端選定委員

私はですね。８社の資料見せていただく中で、まずその中心場面というのは道徳授業の中で大切にしていかないといけないことだと思いますね。それで、中心場面はどこにするかっていうのは、これは指導者の考えがありますので、まあ一つの資料で２か所ある資料もあれば、３か所ある資料もあることも考えられるとも思います。教科書に挙げているのは、その中の一つ、発問例として、中心場面における中心発問例を挙げてると思うんですよ。ところが若い先生はですね、こういうところがちょっとはっきり捉えにくいところがありまして、今、藤本先生がおっしゃったように、ちょっとずれてくる。ずれてくるというのは、教材研究の中でこの価値に対して、どこを中心場面にするかというのは指導者がきちっと抑えないといけないんだけど、そういう面が弱くって、ようするに、道徳的価値と中心場面が結び付かずに中心場面を決めてしまうもんですからね、ずっとずれていっちゃうということもありえますが、そういうことを考えると、やはり中心場面における中心発問例を挙げている教科書っていうのは、すごく先生方にとっては、役に立つのかなと思います。

だから私は「雨のバス停留所で」という資料をどの教科書会社もとりあげていますので、挿絵を一回見てほしいです。小学校というのは、挿絵っていうのはすごく大事なんですよね。文章、言葉からいろんな心情を考えることができる子供もいれば、なかなか言葉からは心情を考えにくい子供もいますので、挿絵を頼りに、考えていくのは藤本先生もご存じのとおり多いと思うんですね。だから、挿絵と発問例というのは、教科書を考える上ではすごく大きな要素になると私は考えているんですが、そういう視点で今回資料を見せていただいて、何か一つ教材を挙げた方がわかりやすいかなと思ったんで「雨のバス停留所で」ということでさせていただきました。そうなると色々見えてくるものがあると思います。

原教育長

別冊があるところとないところがありますが、小学生で別冊はいるのでしょうか。

川端選定委員

それについては選定員会で話が出たんですけれども。道徳は週に１時間。しかも、その時間４５分しかない。４５分の中で本冊だけでもなかなか授業を深めていくのは難しい。別冊はそれをまたやらないといけない、悪くはないと思うのですが、難しいのかなという気がいたして

おります。

原教育長

ありがとうございます。

他に質問はありませんか。それでは川端選定委員には退出していただきます。どうもありがとうございました。

８社もあるので、２社に絞るのはなかなか難しいですが、挙げてください。２、３社ぐらいに絞れますかね。

藤本委員

先ほど川端選定委員にも尋ねたんですけど、授業を見せていただいて小学校の道徳の授業っていうのはものすごく進んでいる。中学校より進んでいると思っていたのですが、見せていただく中でやっぱり中心発問がずれたりですね、それから道徳的価値がずれてしまって終わってしまう授業が多くあったので、ぼくは今使っている学研教育みらいがシンプルで、ものすごくいいと思っていたんです。でも、やっぱりきちんと中心的なところを抑えた教科書の方がいいんじゃないかということが、今思っているところであります。

そうした中で見てみると、東京書籍の教科書がいいんじゃないかなというのと、情報モラルの部分が全面改訂されていてすごくわかりやすい内容になっているなというふうに思いました。それと、川端委員も言われたんですけど、別冊が使いづらいということで。意見もいただいてそういった中で言うのは何ですけども、前は日本文教出版は、付録の中で２項目聞いていたんです。２項目書くところがあったんですけれども、これを１項目にして、４５分間でなんとかできるように取組をしているみたいなので、私は東京書籍と日本文教出版を推薦させていただきたいというふうに思います。以上です。

打田委員

私は、学研教育みらいと日本文教出版です。

波床委員

別冊をどれだけ使うかは、マストじゃないという前提で考えた場合、内容的に日本文教出版がよくできていると私は思います。４つぐらい柱が道徳にはあると思うんですが、４つの柱がしっかりしているのが日本文教出版と東京書籍ですね。

それからもう一つ挙げれば、教育出版も比較的４つの柱がしっかりしているように思いますね。東京書籍はですね、やや情報量が多すぎるというか、分量が多すぎてですね、国語力が高くないと消化できないんじゃないか。逆に言うと、国語力錬成の資料にもなるなという気もするので、文字情報が多いのがいいのか悪いのかちょっと判断しかねるところがありますけれども、東京書籍は情報量が多いという特色があるかと思います。

それで振り返りということを考えた時には、別冊ノートをそれなりの用い方をするという、教え方がやりやすいんではないかなと。日本文教出版を第１順位と、東京書籍を第２順位という形にさせていただきます。

森崎委員

学研教育みらいも前回選んだ時、見開きできれいだし、問いも少なくてシンプルでというこ

とで、学研教育みらいを候補として挙げておりました。今日、お話伺った挿絵の大切さを見せていただいたときに、東京書籍をもう一回改めてみると、「雨のバス停留所で」の親子の表情などとても鮮明に描かれているので候補として一つ挙がりました。

そしてもう一つは、進めやすいかもしれないということで、ノートがついていることがあまりよく思っていなかったのですが、自分の考えを書き入れることができるシンプルな線が入ったものが多いということ。低学年では問題があるかもしれないけども、高学年では、いいのではないかと。それから「心のベンチ」があるところ。それから４年生の３８ページの「相手のことを考える・考えてみる」というところ。ただ、「心のベンチ」のところで、いじめと法律についてというのが書かれていて、法律で押し切っていくのがいじめにとっていいのか疑問点には思うのですが、先生が言われたように新しい人達が進めていくには進めやすい教科書だなと感じました。その３つ。学研教育みらいと東京書籍と日本文教出版です。

原教育長

「雨のバス停留所で」でいうと挿絵は日本文教出版が一番きれいでわかりやすい。東京書籍もきれいでわかりやすい。付録がいるのかどうかというのはあるが、それは教える先生によって活用すればいいのかなという気がしているので、私も東京書籍と日本文教出版です。

それでは、東京書籍と日本文教出版ということでさせていただきます。

事務局から連絡事項はありますか。

岡本教育研究所長

はい、教育長。次回、第４回採択審議についてご連絡申し上げたいと思います。

第４回は、８月２日（金）１７時３０分から２１時の予定です。

場所は、教育文化センター１階会議室です。

本日までの３回にわたるご審議の内容を踏まえ、それぞれの教科・種目について採択決議をお願いしたいと存じます。

連絡は以上です。

原教育長

それでは、閉会します。

』

１０　署名委員

打田　雅子

本会議録が正確であることを証し、署名する。

教育長

委　員